

「学びの变革」指導事例

＜基本情報＞

- ◇教育課程 作業学習（農業）
- ◇学年 中学部 農業第1班 第1学年1名，第2学年4名，第3学年1名（計6名）
- ◇单元名 「秋野菜・花の栽培」※本時：大根栽培の畝づくり
- ◇目指す姿 『気付き，考える姿』
- ◇単元の目標
 - 働くことに喜びをもち，すすんで作業に取り組むことができる。
 - 作業学習を理解し，主体的に最後まで取り組むことができる。
 - 作業に使う道具を正しく安全に正しく扱い，自ら適切な管理や手入れを行うことができる。
 - 役割を理解し，仲間に働きかけながら協力して作業に取り組むことができる。
- ◇本時の目標
 - ・ 手順を理解し，協力して土づくりを行うことができる。
- ◇生徒の実態 知的障害を有する単一障害学級に在籍している生徒で班を編成。内1年生以外は昨年度農業を経験している。言語によるコミュニケーションが可能であり，意見を出したり知識を活用して行動できたりする生徒，自閉的傾向で言語でのコミュニケーションに困難さがあり，指示理解は具体物，イラスト，文字による視覚支援が必要な生徒がいる。ペアやグループでの活動ができつつあり，仲間を意識して協力的態度で目的に向かって活動できる集団である。

＜学習過程（抜粋）＞

学習活動	指導上の留意点 □課題 ○支援 ☆評価		
	A	C	D
4 作業開始	<p>仲間と同じ箇所を順番に決められた回数を耕すことができる。</p> <p>○あえて，同じ箇所をリレーで決められた回数を順番に耕すよう促すことで，仲間と協力してやりきる環境を作る。(T1)</p> <p>☆仲間と同じ箇所を，順番に決められた回数耕すことが</p>	<p>順番を理解し，最後まで継続して掘り進めることができる。</p> <p>○畝の端にプラカードを立て，端から端まで耕すことを理解させる。(T2)</p> <p>☆順番を理解し，最後まで継続して掘り進めることができる。</p>	<p>活動の意味を理解し，深さをチェックして，不十分なところを耕すことができる。</p> <p>○印を付けた支柱を突き刺し，印まで入るかチェックさせる。(T1)</p> <p>☆支柱を土に入れ，不十分なところを，仲間と耕すよう促すことができたか。</p>

耕す深さまでの所に目印を付けた植木用の支柱を改良した教具は単に耕す深さのチェックだけでなく，生徒自身が自分の作業結果を確認できるツールともなりました。指導者が指示をしなくても，生徒A，生徒Cは生徒Dに習い，自ら積極的に活用し，耕す作業をチェックをしながら最後まで集中を切らさず行う姿が見られました。

本時は大根を栽培するための畝づくりの授業である。畑の作業は一定の繰り返し作業で単調となるため，生徒の作業の持続が課題であったが，畝の深さや柔らかさが実感できる支柱を活用したことで，生徒が自分の作業の成果をその都度確認でき，耕し方が十分・不十分を判断し，よりよい畝環境にしようとする意欲的に作業に取り組めた。

作業後，畝を上手に耕したもののその上を踏んで移動することで，結果畝が固く沈んでしまった。畝の柔らかさを保つ工夫について気付かせる発問等や振り返り時に生徒に支柱で再確認させる等，何故また畝が固くなったのかを考えさせ，耕した畝の上を歩かない移動の仕方を気付かせる展開を考えたい。